

主 題：キリストの奴隷

聖書箇所：コリント人への手紙第一 6章20節

「クリスチャンとはいったい何者なのか?」、もし、クリスチャンを定義するとしたら皆さんはどのように定義しますか? 今日、私たちがごいっしょに学ぶのは「クリスチャンとはいったいどのような人たちか?」です。それが今日のテーマです。

ある人々は、クリスチャンとは「キリスト教という一つの宗教を選択した者に過ぎない。」とそう言うかもしれません。確かに、海外へ行くと「自分の宗教」という箇所に○をする欄があります。キリスト教も他にも様々な宗教があります。何となく聞こえが良いから「クリスチャン」でと、そういう感じで○をしている方もいるでしょう。果たして、それがクリスチャンでしょうか? イエス・キリストの十字架に感動して、主イエスに好意を抱いている人々、果たして、彼らはクリスチャンなのでしょう。神によって愛されていることを聞いて、そのことに心の高揚を覚えている人々、果たして、彼らはクリスチャンでしょうか? 「私はクリスチャンです。」と私たちは言います。でも問題は、クリスチャンとはどういう人たちですか? と聞かれて、どれ程の人がそれに答えることができるのかということです。このしばらくの間、私たちはクリスチャンとはどういう人か? そのことをみことばを通してごいっしょに見ていきましょう。

☆クリスチャンとは何者なのか?

先ず、私たちはこのことを考えるに当たって、クリスチャンという呼び名がどこから来たのか、どうしてこのように呼ばれるようになったのか、そのいきさつを見ていきましょう。それは「使徒の働き」の11章に出て来ます。11:26「彼に会って、アンテオケに連れて来た。そして、まる一年の間、彼らは教会に集まり、大ぜいの人たちを教えた。弟子たちは、アンテオケで初めて、キリスト者と呼ばれるようになった。」、バルナバがサウロを見つけた後、アンテオケに彼を連れて来たことが記されています。そして、「まる一年の間、彼らは教会に集まり、大ぜいの人たちを教えた。」とあります。「弟子たちは、アンテオケで初めて、キリスト者と呼ばれるようになった。」のです。キリスト者、クリスチャンです。この箇所から私たちは、少なくとも、このクリスチャンという呼び名は人々によって付けられたものであることが分かります。弟子たち自身がそのように呼んだのではなく、人々がそのように呼んだのです。この人たちは「クリスチャン」であると。

その当時、ヘロデ王を支持する人々のことを「ヘロディアヌス=ヘロデ党」と呼んでいました。それは彼らが行動をもってヘロデ王を支持していることを明らかにしていたからです。そこで彼らのことをヘロディアヌスと呼んだのです。また、あのカイザル(シーザー)を支持していた人々のことを「カイザリアヌス」と呼びました。これも自分たちがカイザルに属していることを行ないをもって明らかにしていたからです。アンテオケの町で、この一群の人たちのことを人々が「クリスチアヌス」と呼びましたが、このことばは「ヘロデ党」という呼び名に倣ったのです。人々はこの人たちの行ないを見て、彼らはヘロデではなくカイザルでもなくキリストに属しているということを察したからです。そこで、その人々を「クリスチャン」と呼んだのです。キリストの支持者、キリストの信奉者、キリストの弟子、キリストに従う者たちがこのように呼ばれたのです。

ですから、少なくとも、私たちがこの記事から教えられることは、このグループの人々、この一群の人々は明らかにその生き方が他の人々とは違っていたということです。彼らはその生き方をもって、自分たちがだれに属しているのか、そのことを明らかにしたのです。だれを支持しているのか、だれに従っているのかを明らかにしたのです。イエス・キリストに従っている、それが彼らの生き方でした。そして、それが明らかに示されていたゆえに、それを見ていた人々は「彼らはクリスチアヌス=クリスチャンである」と、そのように呼んだのです。

私たちはこのしばらくの間、ごいっしょに彼らがどのように生きたのか、そのことをみことばを通して見ていきましょう。彼らの生き方は明らかに、先ほども話したように、このアンテオケという町に住む他の人々とは違っていました。彼らはどのような生き方をしていたのでしょうか? そして、人々はどのような生き方を彼らの中に見ていたのでしょうか? 八つのリストを挙げました。

具体的にどのように生きていたのか?

1. 主を第一に愛する者として

彼らは主なる神を第一に愛する者として生きていました。この世の何ものよりも、そして、自分自身

よりも主を愛していました。そのことは明らかです。なぜなら、それがクリスチャンだからです。先日、家族で集まって話をしていたときに、子どもの一人がこのように言いました。「信じるということは難しい。らくだが針の穴を通るほど難しい。」と。その通りです。マタイの福音書19章にイエスがそのように言われたことが記されています。19:24-27「まことに、あなたがたにもう一度、告げます。金持ちが神の国にはいるよりは、らくだが針の穴を通るほうがもっとやさしい。:25 弟子たちは、これを聞くと、たいへん驚いて言った。「それでは、だれが救われることができるのでしょうか。:26 イエスは彼らをじっと見て言われた。「それは人にはできないことです。しかし、神にはどんなことでもできます。」、その後、ペテロがおもしろいことを言います。「:27 …「ご覧ください。私たちは、何もかも捨てて、あなたに従ってまいりました。私たちは何がいただけるのでしょうか。」、すると、イエスは永遠のいのちについて話されるのですが、ここでペテロたち弟子は「私たちは、何もかも捨てて、あなたに従ってまいりました。」と言うのです。

マタイ10章にイエスが非常に驚くべきことを話されたことが記されています。ご自身がこの世に来られた目的についてお話になっているときに、10:34「わたしが来たのは地に平和をもたらすためだと思っはなりません。わたしは、平和をもたらすために来たのではなく、剣をもたらすために来たのです。」と言われました。イエスはいったい何を話そうとしておられるのでしょうか？35節からこのように続きます。「なぜなら、わたしは人をその父に、娘をその母に、嫁をそのしゅうとめに逆らわせるために来たからです。:36 さらに、家族の者がその人の敵となります。」、イエスは「わたしがこの世に来たことによってそれぞれの家庭にはこのような問題が生じる。」と言われたのです。このみことばを初めて読まれた方は驚かれたことでしょうか。でも、イエスを信じた皆さんは、実際に、そのことを経験されたでしょうか。あなたがイエスを信じて罪赦されて永遠のいのちをいただいている。神の祝福をいただいている。その喜びを家族に伝えたときに、家族はすぐに「私もそれを信じたい。」と言いましたか？却って、「それはあなたの宗教だからあなただけに留めておきなさい。私たちには語らないで。」と言われませんでしたか？私も思い出しますが、私は家族の中で最初に信じたのですが、母と2年間その話をしました。彼女はこのすばらしい救いが分かりませんでした。感謝なことに、その後、家族のすべてが神を信じて救いに至りましたが…。

イエスを信じてこの救いに与った、でも、このすばらしい祝福を彼らは受け入れようとはしません。却って、その知らせ、そのニュースが広がることを阻止しようとしします。イエスが言われた通りです。このことを言われた後、イエスは続いてこのように言われました。10:37-39「わたしよりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません。また、わたしよりも息子や娘を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません。:38 自分の十字架を負ってわたしについて来ない者は、わたしにふさわしい者ではありません。:39 自分のいのちを自分のものとした者はそれを失い、わたしのために自分のいのちを失った者は、それを自分のものとしします。」、イエスはここで何のことを言われたのでしょうか？「わたしよりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません。」とは、「あなたの愛する両親よりもわたしを愛するか？」というイエスの問いかけです。私たちが親を愛することは当然のことです。神が命じていることです。しかし、愛するその親よりもわたしを愛しますか？とイエスは問いかけられたのです。「自分の十字架を負ってわたしについて来ない者は、わたしにふさわしい者ではありません。」と言われました。これは「すべてのこと、あなたのいのちさえも主イエスのために喜んでささげることが出来ますか？」と問いかけたのです。

もし、それが出来なければあなたはわたしにふさわしくないと言うのです。この「ふさわしい」ということばは「～に価する」という意味で、「なにがしにふさわしい、なにがしに属する者たる資格がある」ということばです。つまり、イエスがここで言われていることは「救いのメッセージ」なのです。もし、あなたが「すべてのものよりもわたしを愛する」というその決心が出来ないのなら、わたしにふさわしくないと、この救いに与ることはない、この祝福に与ることはないと言うのです。「あなたの両親よりもわたしを愛する者となる。」と。どうですか？このメッセージを聞くとある人はこのように言われるかもしれません。「そのようなことを言えば信じる人がいなくなるでしょう。この世のいかなるものよりもわたしを愛するか？自分よりも主イエス・キリストを愛するか？それが出来なければわたしの弟子になることは出来ないなんて…。」と。

でも、私たちが覚えなければいけないことは、これが主イエス・キリストがお語りになった救いのメッセージだということです。「天国に行きたいならただわたしを信じなさい。」とか「幸せになりたいですか？では、わたしを信じたらいい。」と、そんなことではないのです。イエスが言われたメッセージは「あなたは何かを選ぶか？」ということです。すべてのもの、あなたのいのち、あなたのすべての願いや夢よりも私を選ぶか？です。だから、ペテロが言ったのです。「私たちは、何もかも捨てて、あなたに従ってまいりました。」と。それが信仰者だからです。私たちが覚えなければいけないことは、そのよ

うな招きを神がなされたということです。確かに、らくだが針の穴を通るほど難しいのです。狭い門です。しかし、このようにして主イエス・キリストは罪人に「わたしのもとに来るか？」と問いかけておられるのです。言い方を変えるなら、罪の奴隷であるあなたが喜んで神の奴隷になるかということです。罪を愛しサタンを喜ばせて来たあなたが、神を愛し神の奴隷として生きて行くかという、その問いかけです。もちろん、私たちはイエスを信じた後も、この世のものを愛したり、罪に走ることがあります。でも、そのようなことを言っているではありません。

もし、あなたが本当に神を何ものよりも愛する決心をして歩んでいるなら、もし、それと違う選択をしたとき、間違った選択をしたときは、必ず、神があなたの心を戒められます。そして、神の前に立ち返るのです。そのようなことがなければ、最初からその人は救われていなかったという確率が高いです。なぜなら、神の救いに対する招きはこのような招きだからです。確かに、言われているように狭い門から入るのです。キリストの奴隷になるか？と言われたのです。それが救われた者たちだからです。

間違いなく、アンテオケにあってこの弟子たちは、神を第一に愛し、神のみこころに喜んで従って行こうと、そのような歩みをしていたはずで、すなわち、人々は彼らを見て「クリスチアヌス、クリスチャン」と呼んだのです。

2. 主を証する者として

弟子たちは間違いなくイエス・キリストの証人であったということです。彼らは間違いなく、イエス・キリストのことを人々の前で証し続けていたはずで、先ほど見たマタイ10章にはこのように記されています。32-33節「ですから、わたしを人の前で認める者はみな、わたしも、天におられるわたしの父の前でその人を認めます。しかし、人の前でわたしを知らないと言うような者なら、わたしも天におられるわたしの父の前で、そんな者は知らないと言います。」、つまり、ここでイエスが言われていることは、主の恵みによって救われた人たちの特徴は、この主を人々の前で証するということです。人々の前で主イエス・キリストの証をするのは、その人が救われているからです。なぜ、イエスはイエス・キリストを信じた私たちに対してバプテスマを受けるように命じたのでしょうか？救いを受けるためではありません。救われたことを公にするためです。「私はイエス・キリストを信じました。私はイエス・キリストとともに葬られ、ともによみがえったのです。この方は私の主人です。ですから、私はその命令に従ってバプテスマを受けます。」と、そうして私たちはバプテスマを受けたのです。私たちが救いに至り、このように生かされているということは、この主のすばらしさを人々に証するためです。間違いなく、弟子たちはそのようにしていました。

パウロのことは使徒の働き9章に記されていますが、まだ、サウロと呼ばれていたときのことで、9:19「食事をして元気づいた。サウロは数日の間、ダマスコの弟子たちとともにいた。」、ダマスコに向かっていたサウロ。彼はクリスチャンを迫害するためにダマスコに向かっていた。その途中で、彼は復活の主に出会い、そして、彼は救いへと導かれるのです。アナニヤが彼を導いて、サウロの上に手を置いて祈ったとき、サウロの目から鱗のようなものが落ちて目が見えるようになったと言います。そして、バプテスマを受けて食事をして元気づいたサウロは、数日間そこに留まりました。そして、ダマスコで20節「そしてただちに、諸会堂で、イエスは神の子であると宣べ伝え始めた。」、サウロが信仰をもってすぐにしたことは出て行ってイエス・キリストを宣べ伝えることでした。21-22節「これを聞いた人々はみな、驚いてこう言った。「この人はエルサレムで、この御名を呼ぶ者たちを滅ぼした者ではありませんか。ここへやって来たのも、彼らを縛って、祭司長たちのところへ引いて行くためではないのですか。」

:22 しかしサウロはますます力を増し、イエスがキリストであることを証明して、ダマスコに住むユダヤ人たちをうろたえさせた。」。

何が起こったのでしょうか？救われたサウロは出て行ってイエス・キリストこそが真の神であり、救い主であることを人々に宣べ伝えたのです。これが救われた人の特徴です。このすばらしい救い主を知ってもらいたい、このすばらしい救いに与ってもらいたいと、人々は出て行ってこのメッセージを伝え続けるのです。ローマ10:10にはこのように記されています。「人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。」、その人が救われたことは、その告白によって証明されます。明らかに、このアンテオケの町でもそのことが行われたのです。最初に、使徒11:26のみことばを見ました。「まる一年の間、彼らは教会に集まり、大ぜいの人たちを教えた。」とありました。パウロはみことばを、そして、主イエス・キリストについて教えたのです。間違いなく、彼らは主を証する者としてこの町で歩み、生活をしていました。

3. みことばの学びに励む者として

彼らは一生懸命にみことばを学びました。なぜ、そのように言えるのでしょうか？皆さんも経験されているように、イエスのことを人に伝え始めると、もっとイエス・キリストのことを知りたいと思います。

いろいろな質問を受けるからです。そうすると「少し時間をください。勉強して来るから。」と、私たちはより深くみことばを学んでいこうとします。私たちがイエスのことを人々に語り始めると、私たちの心の中にもっと神を知っていきたい、もっとこの真理を知っていきたいという願いが与えられます。ですから当然、彼らもみことばを真剣に学び、そして、その学びに積極的に参加していたと言えます。というのは皆さん、みことばを学ばなければ私たちは神のみこころを知ることはないからです。神が夢の中に現われて私たちに語るのではありません。今、そのような働きはありません。主が為さる方法はみことばを通して私たちにみこころを教えることです。それなら、みこころを知るためにはみことばをしっかりと学ばなければいけないのです。

また同時に、私たちが主を愛しているなら、主が与えてくださったものに対してもっと関心を払い、より主を愛するためには神がくださったこのみことばに関心を払うことです。なぜなら、このみことばを通して私たちは私たちの神を知るからです。みことばを通して、私たちは神のみこころをより深く知って行くのです。ですから、主を愛する人々の特徴は「みことばを愛した」です。詩篇 119 篇のみことばを幾つか挙げておきます。

119 : 47 「私は、あなたの仰せを喜びとします。それは私の愛するものです。」、著者は神のみことばを喜びとした、それは私の愛するものだからと言います。

119 : 97 「どんなにか私は、あなたのみおしえを愛していることでしょうか。これが一日中、私の思いとなっています。」、神のみことばを愛していたゆえに、その方を一日中覚え続けていたと言うのです。

119 : 127 「それゆえ、私は、金よりも、純金よりも、あなたの仰せを愛します。」、この世のどんなものよりもあなたのみことばを愛しますと。

これらは神を愛する者たちの特徴です。神を愛するゆえに神のみことばを愛して、そのみことばを通して愛する主のことを知りたいというのです。

使徒の働き 17 章にも、ベレヤの兄弟たちのことがこのように記されています。17 : 11 「このユダヤ人は、テサロニケにいる者たちよりも良い人たちで、非常に熱心にみことばを聞き、はたしてそのとおりがどうかと毎日聖書を調べた。」、彼らは熱心にみことばを聞いていたのです。

ですから、少なくとも、私たちが言えることは、私たちの信仰の成長とともに私たちに起こって来る変化は、もっと深くみことばを知って行きたい、もっとみことばに触れていたい、もっとみことばを通してこの神を知っていきたいという願いが起こされることです。間違いなく、このアンテオケにいたクリスチャンたちはそのような者としてみことばを学び、そして、みことばを通して自分たちの愛する主をより深く知っていったはずです。

4. みことばの実践に励む者として

みことばを学ぶことを考えるとき、私たちは学ぶだけではだめだと知っています。ですから、この人たちもただ学ぶだけではなかったのです。学んだみことばの実践に励む者として歩んでいました。ヤコブがヤコブの手紙 1 : 22-25 でこのように言っています。「:22 また、みことばを実行する人になりなさい。自分を欺いて、ただ聞くだけの者であってははいけません。」、なぜ、私たちはみことばを実践すること、みことばを守り行なっていくことが必要なのでしょうか？ 25 節に記されています。「…こういう人は、その行ないによって祝福されます。」、その行ないによって祝福されるというのです。みことばを実践することによってあなたは祝されるというのです。でも、実際のところ、みことばを実践するためにはみことばを覚えていなければいけません。でも、どれだけの人がみことばを聞いた後みことばを覚えていますか？果たして、何日間覚えていますか？いや、何時間覚えていますか？それで私たちは「神さまに従っている。」と言うのです。おかしいことです。ヤコブが言います。見てください。「:23 みことばを聞いても行なわない人がいるなら、その人は自分の生まれつきの顔を鏡で見る人のようです。:24 自分をながめてから立ち去ると、すぐにそれがどのようであったかを忘れてしまいます。」、つまり、みことばを聞いて、ただそれだけならすぐに忘れてしまう。自分を鏡でながめてもその場を立ち去ったらすぐに忘れるように。では、どうすればいいのか？ヤコブは教えてくれます。「:25 ところが、完全な律法、すなわち自由の律法を一心に見つめて離れない人は、すぐに忘れる聞き手にはならないで、事を実行する人になります。」と。「律法を一心に見つめて離れない」、ずーと見つめているから忘れないのです。皆さん、工夫がいるということなのです。

もし、皆さんがみことばを実践したいと願うなら、実践出来るように、そのみことばが教えている神のみこころを忘れないようにする努力しなければいけないということです。当たり前のことです。そして、そのような人は神の祝福をいただくというのです。ということは、みことばを聞いて何もしない人々にはこの祝福がないということです。私たちは神を責めることは出来ません。神はどのように生きて行くのかを教えてくれているからです。それをやるかやらないかは私たちの責任です。

5. 主なる神の祝福を分け与えている者として

間違いなく、この人たちは「主なる神の祝福を分け与える者として」歩んでいました。実は、そのために私たちは救われたと、そのことをペテロが教えています。Ⅰペテロ3：9「悪をもって悪に報いず、侮辱をもって侮辱に報いず、かえって祝福を与えなさい。あなたがたは祝福を受け継ぐために召されたのだからです。」、あなたは何のために救われたのですか？その目的の一つは人々に祝福を分け与えるためです。「かえって祝福を与えなさい。」と書かれています。どういうことでしょうか？これは「良いことを言う」という意味です。人の悪に対して悪で報いるのではないということです。だれかが悪口を言った場合、悪口をもって言い返したり、また、陰でその人たちの悪口を言ったりする、そのようなことがあってはならないと言うのです。私たち救いに与った者たちは、たとえ、人々がどのような悪を働いたとしても、どのような悪を語ったとしても、私たちはその人たちに対して神の祝福があるように祈っていきなさいと言うのです。敵のためにとりなしの祈りをささげて彼らに善行をなし、彼らのことを決して悪く言わないことです。確かに難しいことです。でも、良く考えてみると、イエスの生き様はその通りでした。イエスの歩みを見たときに、自分に悪を為す人たちに対してイエスは悪をもって報いたでしょうか？そうではありませんでした。悪を行う人々のためにイエスはお祈りになりました。彼らのためにとりなしをされたのです。

残念ながら、私たちはこの地上での生活の中で人のことばや態度などに傷つくことがあります。でも、皆さん、そのようなことを完全に防ぐことは出来ません。もし、そのようにしたいなら私たちはこの世界から出て行かなければいけません。だれもない所に行かなければなりません。人間関係の間でそのような問題はいつも起こるからです。大切なことは、そのような人たちを避けようとするのではなくて、その問題の中で私たちがどのような選択をして行くのかということです。

もし、皆さんに酷いことを言う人がいるなら、神が望んでおられるように、彼らの上に神の豊かな祝福があるように祈ることで、少なくともそのときに、神があなたのうちにしてくださることは、あなたを罪から解放して喜びへと導いてくださるのです。それが証拠に、私たちのうちに人に対する苦い嫌な思いがあると私たち自身の心まで荒んでしまう、心が沈んでしまいます。喜びがなくなってしまいます。そのような経験はありませんか？罪があるからです。私たちが救われたのはなぜですか？ペテロは言います。私たちが人々にこのすばらしい祝福を分け与えるためだと。このように人間的には不可能なことを神が命じたのはなぜか？それは神によって可能だからであり、そして、それをあなたが為すときに、あなたのうちに働いておられる神のことが人々の前に明らかになるからです。人間的に見て不可能なことだと、当然です。私たちはそれほど忍耐強くないし寛容でもないからです。愛の人ではないのです。でも、愛の神が私たちを変えてくださることによって、そのことが可能になるというのです。それを通して神のすばらしさが人々の前に明らかにされるのです。信仰者の皆さん、あなたは救いをもたらすためにこの救いに与ったのです。そのために神はあなたを様々な所に置いてくださっているのです。

6. 感謝と喜びに溢れている者として

明らかに、この人々は日々の生活において喜びと感謝に溢れて歩んでいた人々です。なぜなら、この感謝や喜びは主が与えてくださるものだからです。あなたが主とともに歩んでいるなら、あなたが主の前に正しく歩んでいるなら、その正しい歩みをしていることを神があなたに教えてくれる方法は、あなたの心が喜んでいて、あなたが感謝しているかどうかです。詩篇94：19「私のうちで、思い煩いが増すときに、あなたの慰めが、私のたましいを喜ばしてくださいませように。」、いろいろな思い煩いが増して行く、そのような私たちに神は慰めを与えてくれる、私たちの心を喜ばせてくれると言います。エペソ人への手紙5章でもコロサイ人への手紙3章でもパウロ自身が教えています。あなたが主とともに歩んでいるなら、あなたが神の前を正しく歩んでいるなら、あなたの心の中に神はこのような豊かな祝福を与えてくださると。あなたの心に喜びと主に対する感謝が溢れると言うのです。私たちの心がこのような感謝と喜びに溢れているとき、そこから神が喜んでくださる奉仕が生まれて来るのです。ヘブル12：28をご覧ください。「こういうわけで、私たちは揺り動かされない御国を受けているのですから、感謝しようではありませんか。こうして私たちは、懐みと恐れとをもって、神に喜ばれるように奉仕をすることができるのです。」。

7. 主が喜ばれることを喜ぶ者

彼らは間違いなく、主が喜ばれることを喜ぶ者として歩んでいました。あなたが選択をするとき、どのように考えて選択をしていますか？自分のしたいことを選択するのか、それとも神が喜ばれることが何かを考えて選ぶのか？パウロはこのように記しました。Ⅱコリント5：9「そういうわけで、肉体の中にあろうと、肉体を離れていようと、私たちの念願とするところは、主に喜ばれることです。」、生きていても死んでも、私が望んでいることはただ一つ、神が喜んでくださること、それしかないと言うのです。そ

のパウロがこう言います。エペソ5：10「そのためには、主に喜ばれることが何であるかを見分けなさい。」「見分けなさい」と言います。つまり、私たちは祈りをもってしっかり考えなければいけないのです。「神さま、いったい何があなたの前に正しいことか、何があなたに喜ばれるのかを教えてください。」と。

いろいろなことが起こる中で、先ほども見たように、人の悪に対してどのように応じることが神の前に喜ばれるのか？どのような態度をもってそれに向き合うことが神の前に喜ばれることなのか？そのことをしっかりと見極めなさいと言うのです。この信者たちは、神の前にどのような状況でも神が喜んでくださることが何であるかを考えてそれを選択しようとしていた者たちです。もちろん、私たちと同じように失敗もあったでしょう。しかし、少なくとも、彼らが望んでいたことは神の前に喜ばれることを選択することです。神の前に喜ばれる選択をして行くときは私たちの心まで喜んでいきます。私たちはそのように生まれ変わっているからです。

コロサイ1：10に「また、主にかなった歩みをして、あらゆる点で主に喜ばれ、あらゆる善行のうちに実を結び、神を知る知識を増し加えられますように。」とあります。「主にかなった歩みをして」とは「それに倣するように、それらしく、それにふさわしく」という意味です。つまり、イエスを信じたあなたは、主と同じ基準をもって生きる者へと変えられたと言うのです。主と同じ基準です。聖さにおいても正しさにおいても。あなたはそのようにして救いに至ったのです。救いに与ったのです。そして、あなたは「あらゆる点で主に喜ばれ」とあります。私たちが望むことは、すべてのことを通して主が喜んでくださることです。そして、「あらゆる善行のうちに実を結び」とは、そのような者へと神があなたを変えていかれるということです。最後に、「神を知る知識を増し加えられますように。」とありますが、これは「霊的成長」のことです。つまり、このコロサイ1：10には、生まれ変わったあなたは主と同じ基準をもって生きていくことが出来る、また、そのように生きて行く者として生まれ変わったあなたが、そのように歩み、そして、いつも神が喜んでくださることを考え、それを選択し、主とともに歩んで行くなら、あなた自身は益々主に似た者に変えられ、あなたは霊的に成長して行くということを教えるのです。

ですから皆さん、私たちに必要なことは何か？私たちはしっかりと何が神の前に喜ばれることかを考えて、そして、その正しいことを神の助けをいただきながら選択し続けて行くことです。失敗すれば、それを悔い改めて主に立ち返ることです。そのように私たちが正しく歩み続けて行くときに、神は確実に私たちのうちに喜びをくださり、私たちをキリストに似た者に変えてくださり、そして、私たちの信仰が成長して行くのです。今、見て来たように、ただみことばを聞くだけでは私たちの信仰は成長して行きません。私たちが聞いて実践するとき、みことばが教えていることが確かにその通りだという確信を得ていきます。本当に神はこのような方だという確信を得ていきます。

神の前に必要な信仰者、役立つ信仰者というのは頭だけの信仰者ではありません。確信をもった信仰者です。神のみこころは必ず成ると信じ切った者です。どこからそのような確信が出て来ますか？主とともに歩んでいるからです。みことばを実践するからです。

8. 主を誇りとする者として

彼らは主を誇っていました。ガラテヤ6：14でもパウロはこのように言っています。「しかし私には、私たちの主イエス・キリストの十字架以外に誇りとするものが決してあってはなりません。この十字架によって、世界は私に対して十字架につけられ、私も世界に対して十字架につけられたのです。」、パウロは「私の誇りは主イエス・キリストの十字架だ。なぜなら、この十字架がなければ私の罪は赦されることはなかったから。」と言います。私たちがイエスの十字架を見上げるときに、私たちはこの方を愛し、この方を誇り、この方のために生きる、あの十字架は私たちの誇りであると言うのです。なぜなら、愛するイエスが十字架上で身代わりとなって死んでくださったから、私の罪のとりなしをしてくださった、贖いを成し遂げてくださったからです。

少なくとも、私たちはこのようにいろいろなみことばを見て来ました。アンテオケにあって、この信仰者の一群は、恐らく、このような神が望んでおられる生き方をすることによって、人々の前で証を立てていました。彼らは明らかに「私たちは主イエスを愛しています。私たちは主イエス・キリストを誇っています。私たちはこの方が喜ばれることをしたいと願いそのように歩んでいます。なぜなら、私たちはこのキリストの奴隷だからです。」と、語るだけでなくそのように生きていたこの人たちを見て、人々は「この人たちはキリストの弟子だ。クリスチャンだ。」と呼んだのです。人々は恐らく、この人たちの生き方が変わったことを目撃したのでしょう。このような生き方の変化は、その人が救いに与ったことの証拠です。救いとはそういうものです。新しく生まれ変わるのです。偶像に仕えていた私たちが、そこから生ける真の神に仕える者へと生まれ変わったのです。創造主なる神を愛する者へと生まれ変わったのです。I テサロニケ1：9「私たちがどのようにあなたがたに受け入れられたか、また、あなたが

たがどのように偶像から神に立ち返って、生けるまことの神に仕えるようになり、」。

生まれ変わった人は、その生き方が変わった人です。だから、イエスの救いのメッセージの中に「悔い改め」を命じているのです。あなたが信じているものをそのままにして「ただイエスを信じたらいい」というメッセージはどこにもありません。「罪を捨ててわたしを信じわたしについて来なさい！」と言われたのです。「使徒の働き」の中を見るとき、使徒たちはこのようなメッセージを語っています。3：19「そういうわけですから、あなたがたの罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて、神に立ち返りなさい。」、20：21にも「ユダヤ人にもギリシヤ人にも、神に対する悔い改めと、私たちの主イエスに対する信仰とをはっきりと主張したのです。」、26：20にも「ダマスコにいる人々をはじめエルサレムにいる人々に、またユダヤの全地方に、さらに異邦人にまで、悔い改めて神に立ち返り、悔い改めにふさわしい行ないをするようにと宣べ伝えて来たのです。」とあります。「罪を悔い改めなさい。神に逆らうことを止めなさい。そして、わたしを受け入れて、わたしについて来なさい。」と、悔い改めとは「罪を後悔すること、自分のしたことを後悔すること」ではありません。「悔い改め」とは、私たちがその罪から離れようという心からの決心であり、同時に、神に喜ばれることを為して行こうという決心です。罪から離れて神が喜んでくださることを為して行こう！と。

そこで、クリスチャンとはいったい何者なのか？このように定義ができると思います。

【定義】「クリスチャンとは、キリストの贖いにより神を愛する人へと生まれ変わった者」

イエスを信じている者一人ひとは、このイエス・キリストを心から愛し、自分のいのちよりもこの方を愛し、ゆえに、この方のみこころに従って行こうとする人たちです。これまでの神に逆らう生き方を悔い改めて、神が喜ぶ生き方をし、これまで従って来た偽りの神々を捨てて、真の神を信じその方に従って行こうとします。このイエス・キリストだけが、この十字架と復活だけが、私の罪を赦すことができる救いの道であるから、それを信じ、その主イエス・キリストに従おうと決心した者たちです。

皆さん、あなたはそのような者ですか？私たちは今一度、クリスチャンとはどういう人なのか、そのことを見て来ました。というのは、このテーマは私たちがいい加減にしてはならないテーマだからです。「救い」という最も大切なことを考えるに当たって、私たちはしっかりとみことばを見て、そして、一人ひとりが「私はイエス・キリストによって生まれ変わった者だ。私はイエス・キリストを私の救い主、私の主と信じ、私はイエスに従う決心をした。そして、神は私を生まれ変わらせてくださり、このように私を変えて行ってくださる。」と、そのように告白できる者たちです。なぜなら、イエスを信じることによって、イエスによって救われることによって、この主を愛する者として主があなたの生き方を変えて行かれるからです。

もし、イエスを信じておられないなら、そして、その自分の歩みが不忠実だったとするなら、今、悔い改めて、主の前にもう一度、主を心から愛する者として歩み始めて行くことです。感謝なことに、あなたの罪を主は何度でも赦してくださる。しかし、私たちは忘れてはいけません。私たち信仰者はどんなことを決心をしたのか、どのように生きて行くことを決心したのかということです。私のすべてのものよりも私自身よりもこの方を愛しこの方に従って行くことを決心したことを。どうぞ、そのように歩み続けてください。主があなたを助けてくださり、そのように歩もうとしているあなたを神は確実に祝してくださるからです。そして、間違いなく、あなたを用いてご自身の栄光を現わしてくださるのです。そのような信仰者として歩み続けてください！

この世界に対して、この方だけが救い主であることを明らかにする者として歩んでください。主は私たちのためにこのようすばらしいみわざをなして下さったのです。私たちは生まれ変わったのです。罪の奴隷ではありません。サタンの奴隷でもありません。私たちはキリストの奴隷となったのです。感謝なことです。

《考えましょう》

1. あなたが「クリスチャン」であることの証拠を挙げてください。
2. あなたが信じてから変えられた点を挙げてください。
3. あなたの周りの人たちは、あなたが「クリスチャン」であることを知っていますか？
4. 彼らの救いのために、あなたは何をしたいですか？いくつでも挙げてください。